



ふれあい通信

第一七五回史跡ウオーク チーム雅

「寺院が集団移転した街・鴨東新洞を歩く」

鴨東新洞地域には五十五もの寺院が集まりその通りは洛中の名に「新」を冠している。

それは、寛文大火（一六七三）、宝永大火（一七〇八）で焼失した寺院や町家が、殆ど林畑であった鴨川の東岸を開発して集団移転したとき、洛外に移っても洛中であるという住民の意気込みを表したものと思われる。

江戸初期（一六一一）、檀王法林寺が三条川端に最初に創建された。次に、寛文大火により内裏に隣接していた頂妙寺が二条新地に移転、そして宝永大火により焼失した寺院街（寺町二条以北）及び町家群が集団移転した。（京都御役所向大概覚書に二十七ヶ寺移転の記録）。新洞地域の寺院群は、焼失前の優れた寺町景観を今に伝えていきます。「新」を冠した通りを、洛中の通りを思い浮かべ歩くと面白い発見があります。ご期待ください。

- 日時 四月十八日（日）受付九時～九時半
 - 集合 京阪三条駅 高山彦九郎像前
 - コース 檀王法林寺→心光寺→頂妙寺→大蓮寺→大恩寺→妙傳寺→本妙寺→聞名寺→明眼地藏→寂光寺→要法寺（ゴール）
- 会員の皆様へ
チーム雅の会員は八時に、その他会員は八時半に集合お願いします。

京都史跡ガイド
ボランティア協会
会長 山田久男
編集 澤田 卓

頂妙寺の仁王門

伝運慶作の持国天像、毘沙門天（多聞天）像を安置。門上部に豊臣秀吉が宗門布教再開を許可した書状の扁額。



京都名家墳墓録と寺院

チーム雅 今井 満

発掘をする時は、古地図を調べて、元は公家や大名の屋敷がなかったか調べ、掘下げた層位に基づいて、地図や古文書の信憑性をはつきりさせながら行う。

寺院の場合も間取りもそうだが、どんな有名な墓があったか調べる。そして検証には大正時代に出版されている『京都名家墳墓録』を紐解いて、間違いないか照合する。

今回の歴史ウオークのコースは、鴨川の東の新洞地区の寺院を案内して廻るが、非公開でコースに入れられなかった西方寺を調べていて驚いた。なんと寺では公表していない赤穂浪士の墓がある。

今回のコースでは、本妙寺に赤穂義士の吉田忠左衛門など三名の墓があるのは、寺も宣伝して有名だが、西方寺にはなにもない。

西方寺の赤穂義士の墓は、小野寺十内、小野寺秀豊、岡野金右衛門、大高源吾である。彼らは切腹の後、浅野内匠頭と同じ泉岳寺に埋葬された。だが小野寺十内の遺言で下僕が遺骸を盗み出して、火葬にして西方寺に埋葬したとある。

西方寺には白河法皇の建てた六勝寺の一つ法勝寺のご本尊の阿弥陀如来像があると聞いていて、併せて見学を申し込んだが、檀家の方さえコロナで遠慮して貰っているという。

今回のコースには、安倍晴明所縁の心光寺や囲碁の本因坊発祥の寺もあって盛りだくさん、すべては紹介し切れない。当日にウオークの中で皆さんの知らない面白いお話をさせて頂きます。ただコロナの拡大もあり、感染予防に留意されてお集まり下さい。



名水

チーム葵 遠藤 千代子

京都は古くから、名水と呼ばれていて、井戸が現在でも脈々と受け継がれています。その数、約四七十箇所もあるようです。特に御所付近には多く残っています。梨木神社の染井。この付近はいつも車が止まり、水を貰っていく方が後を断ちません。御所内には、明治天皇生誕の祐井や、清和天皇の邸宅跡、今は迎賓館の裏手に染殿井など。

藤原定家が歌に詠んだ滋野井は府庁近くにあります。この井戸は藤原成通、後鳥羽上皇など多くの貴人の由来をもつそうです。明治時代に埋められたそうですが、昭和五五年永い眠りから目覚めました。地域の方が多くの方に見て頂ければと尽力されたようです。京都学びの街、生き方探究館前に井桁と石碑があります。(藤原貞主邸宅内)

鎌倉期の辞典とも称される「拾芥抄」には「中門北 西洞院西 滋野貞主家」と記載されていたようです。江戸期には多くの著書に記述が残っています。近代では岩倉具視も探し当てたようです。それほどまでもして探すのはなぜなのか？

京都産業大学鈴木教授によると、藤原家は蹴鞠の名手で、井戸の上に申の月、申の日、申の刻に蹴鞠の精「春陽花、夏安林、秋園」の三匹の猿になって井戸の上に影向して成通に蹴鞠の法を伝授した。この伝承から後鳥羽上皇が蹴鞠の神、精大明神を祀る滋野井社を建立した。また定家の明月記の記述が滋野井とあるところから上皇の目的は名水であったと思われるなど。

その後飛鳥家に勧請され、滋野井社は白峰神宮に鎮座されている。

「田辺朔郎の一生」特別展

チーム葵 古谷正弘

今、琵琶湖疏水記念館で、田辺朔郎のお孫さん寄稿による「田辺朔郎の一生」に関する特別展をやっています。紹介します。五月九日迄。

叔父・太一は、戊辰戦争で函館五稜郭に立て籠もった榎本武揚ら四人組の首領格で、朔郎は、太一の導きで徳川家兵学校付属小で数学、南部藩藩校で英語をみっちり勉強できた。

朔郎は工部大学校に進むが、そこで英国は最高の技術を惜しげもなく日本に教えた。それは、帝政ロシアの南下政策を日本を防波堤にして押し戻したかったから、が大きい。

疏水工事について、朔郎の卒業論文が北垣知事の目に留まり任されたという物語が流布しているが事実ではない。北垣は最初半信半疑で、朔郎の評価は島田道生より低く、三年目に「意外によくやる」と逆転した。長等山出水事故の時、高木文平が朔郎更迭、南一郎平招聘を進言したのを、北垣は一蹴した。

朔郎は北垣の娘静子と結婚した。朔郎は「押し付けられた」「たまたまうまくいったが、人には勧められない」と回顧し、北垣も娘が嫁ぐにあたり生野事件で使った刀を娘に授けた。

朔郎は北垣に付いて北海道庁の鉄道敷設工事に従事した後、シベリア鉄道の建設状況の調査を命じられた。朔郎の報告に基づき、桂内閣は日露戦争の開戦時期を決めた。

第二疏水は西郷菊次郎が提案推進しように書かれているが、菊次郎の市長就任は計画が市議会でも可決した二年以上後である。

朔郎は晩年「わしは京都の田辺になってしまった」と嘆いた。

『驚き、桃の木、明治の記』② 渋沢栄一

チーム葵 今川博明

引き続き渋沢栄一です。彼が役人になった大蔵省での上司は井上馨でした。井上は長州出身で維新後は外相、蔵相など歴任した人物ですが、『雷親父』と呼ばれていました。理由は、性格が短気で直ぐに人を怒鳴るからです。でも、渋沢栄一の傍では怒ることがなく、おとなしかったのです。そのため、渋沢は『避雷針』というあだ名が付けられたそうです。でも渋沢曰く、本当の避雷針は井上だったと言います。なぜなら、トラブルが起きても彼が体を張って受け止めてくれるので、自分はやりたいように仕事ができたと。当時の大蔵省の筆頭・大蔵卿という任に大久保利通がいた時の事、大久保は国の財政にあまりにも無関心なので、渋沢はそれに業を煮やし、辞表を握りしめて井上馨邸に向かいます。

「大蔵卿やその配下の者たちは、国家財政がどうあるべきか、まったく考えもせず、分かつうともしません。自分たちがいくら良い政策を立てても、これでは焼け石に水。本来の大蔵省の役割を果たせません。無駄骨を折るだけになるのは目に見えているので、辞めさせていただきます」と。ところが、井上馨はこれを思いとどまらせません。「君の言い分はよくわかる。しかし今辞められては困る。財政については、自分に考えがあるから、辞職はしばらく待ってくれないか」と言うのです。実はこの後、大久保利通たちは、条約改正の件で欧米各国を一年に渡って訪問する予定があり、その間、大蔵省の実権を握るのは井上馨だったのです。なんと渋沢栄一は井上馨の配慮でそれまでの間、大阪造幣局の勤務となり、呼び戻されて東京に戻った時には、大蔵省から大久保一派は排除され、井上が実権を握っていたのでした。

御垣守

チーム葵 澤田 卓

みかきもり 衛士のたく火の 夜は燃え

昼は消えつつ ものをこそ思え

百人一首に見える大中能宜の歌ですが、三十六歌仙にも名を連ね、孫の伊勢大輔も同じく百人一首に選ばれるなど、平安時代の歌人文化サロンに花を添える生涯のようです。

私など和歌だけでなく、俳句や詩文にも全く興味がなく、アウトドアや旅行にうつつをぬかし、漫然と年を重ねてきたのですが、この史跡ガイド協会に入会したことで、どうしても古典や和歌などに接する機会が増え、古の歌詠み人のロマンスに興味を持つようになりしました。

御垣守の歌も、夜は暗いから篝火は付け、日中は消して当たり前だという位な理解でしたが、大意を知るにつけ何と恋の歌なんだ、ということを理解した次第です。

大意は、宮中を守る衛兵達により日が落ちると篝火を焚くのだが、この篝火のように、私の恋心もわが身を焦がすように切なく燃える。しかし、夜が明けると篝火は消えてしまうように、私の魂も消えてしまおうとく思い悩むのですが、貴方には・・・。

書いているこちらが恥ずかしいほどの恋の歌なんです。しかも相応の位を有する貴族がですよ。かつ、恋の歌は百人一首にはかなり多く掲載されていることから、この時代の島国日本がいかに平穏であり、宮中文化の花盛り、恋愛を謳歌したことか。江戸後期の武士道精神などは大違いの時代があったんだなあと今更ながらに我が国の悠久の歴史に思いを馳せています。

豆知識

元号の基本(一)

チーム彩 矢野 正明

元号が令和に改められて三年目を迎えました。元号は戦後一時期、廃止の方向で論議されたこともありましたが、歴史上の出来事や社会現象として認識され、人々の生活に根深く定着していることから、今日まで脈々と続いていきます。

元号の起源はBC二世紀、前漢の武帝時代に誕生した制度で、過去にはベトナム、朝鮮でも使用していましたが、現在は日本だけです。日本では、六四五年の「大化」が最初で、令和まで実に二四八の元号が存在します。

改元ペースは平均五年に一度で、最長は「昭和」の六二年間。二番が「明治」。三番目が室町時代の応永の三三年となっています。最短は鎌倉時代の「暦仁」の二か月。これは略人と不吉な年号として、すぐに廃止されました。

結構、年号の呼び方は難しく、ガイド泣かせの所もあります。基本を覚えればさほど難しくはありません。「暦」はいずれの時代も「りやく」と読みますが、江戸時代の「明暦」「宝暦」は例外的に「れき」と読みます。「元治元年」の「元」も語呂がいいのか、何気なく「ガンジ元年」という説明者を見かけます。

「元」と言う元号は二七回あり、「永」に続き多いですが、「がん」と読むのは平安初期の「元慶(がんぎょう)」のみです。逆に語呂が悪いのは「明和九年」を迷惑年とも読め、十年を待たずに明和の大火とあいまって「安永」へと改元されました。室町後期の「天文」も、「てんもん」と読んで、「テンブン」と正確に言う人の方が少ないのは残念です。今回は改元の理由についてご説明します。

おしらせ

★ 第一七六回ウォーク 五月一六日(日) チーム彩が担当

「明智光秀と坂本城址：西近江路を歩く」

築城四五〇周年にちなんで坂本城址と西教寺周辺の光秀ゆかりの地を訪ねます。

京阪石坂線 坂本比叡山駅集合

★ 第一七七回ウォーク 六月二〇日(日)

「逢坂関から山科・奈良街道へ」 チーム葵 東海道近江路は逢坂関から、山科の里へ、追分交差から奈良への旧街道を訪ねます。

京阪京津線 大谷駅集合

第一七四回史跡ウォークを終えて

チーム華 立川 登美子

緊急事態宣言の発令により、のびのびなっていた今回のウォーク、やっと開催を迎えたにもかかわらず、無情の雨。それでも、この中四九名の参加があり、雨の中、足を運んでくださった方、ありがとうございました。

また、今回は、見送ったという方、ぜひ、ふれあい通信に目をおしていただいて、京都駅ビル、北辺のお寺、またその街並みをたどっていただければ、嬉しく思います。

本願寺の大きな門の下での説明、駅ピアノを弾く人の姿。少しずつ、京都も元気をとりもどしてきてくれそうな気配を感じました。

雨でなければ、空中経路から、京都の街並をみながら、それぞれの人の思いを含んだ声が聴けたのにと、少し残念では、ありませんが、次回、京都駅を大切な人とくるときの楽しみにとっておくという風にとらえないと思います。 ……で、誰とこようかな？

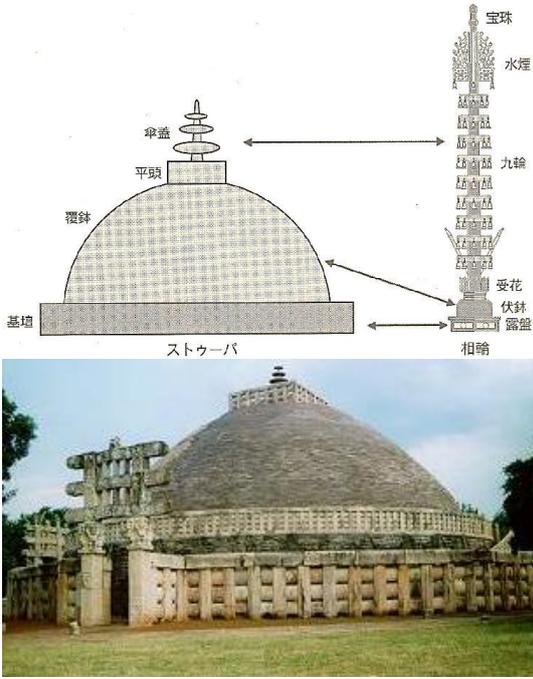


塔について

チーム華 富永 正治

五重塔や三重塔は、監視や物見のための建物ではなく、本来は釈迦の骨(仏舍利)を安置するお墓でした。このお墓をインドではストウーパといい、中国で音訳されて卒塔婆(そとば)となり、省略されて塔婆、塔となりました。

今も残るインドのストウーパをみると、それは日本の五重塔・三重塔の相輪と呼ばれる塔の最上部に引き継がれていることがわかります。すなわち五重塔・三重塔で一番重要な部分は相輪であり、塔を塔らしくみせている五重・三重の屋根は中心を貫く心柱の“覆い”あるいは“鞘(さや)”にすぎないこととなります。



インド最古のサンチーの仏塔(第一塔)
(紀元前三世紀中頃、高さ一六・五m
直径三六・六m)

平等院の概要

チーム彩 酒井 源弘

平等院の沿革

京の都から見て裏の吉方(辰巳の方角)にあたる宇治の地は、早くから平安貴族の別業(別荘)の営まれる地として栄えた。九世紀末頃源氏物語光源氏のモデルと言われる「河原の左大臣 源融」の別業を、六条左大臣源重信(宇多天皇の孫)を経て藤原北家の藤原道長が譲り受けた。

万寿四年(一〇二七)全盛を誇った道長が糖尿病の苦しみの中で亡くなると、頼通が之を継いだ。永承七年(一〇五二)末法の世になると言われる年に寺院に改め、阿弥陀仏を祀る「阿弥陀堂」を建て、極楽往生の地「平等院」を造建する。

《末法のはじまり》

中国歴で前九四九年二月一八日お釈迦さまが入滅された日が基準になります。マイナス九四九年十千年(正法)十千年(像法)一一〇五一年 翌年一〇五二年より末法に入る。その二、三年の間に中納言以上一四名のうち八名が病没、洪水、暴風雨、飢饉が発生し盗賊がはびこった。

翌年天曆元年(一〇五三)には平等院「阿弥陀堂」が落慶、堂内には平安時代の最高の仏師「定朝」の手による二m四〇cm以上にもなる寄木漆箔造りの阿弥陀如来が置かれた。

しかし平等院は藤原北家(ほっけ)一族の繁栄を、また極楽浄土への導きの場として祈る場所であった。「極楽いぶかしくば宇治の御寺をうやまえ」と言われた通り藤原北家のためだけの御寺として建立された。一般の人は入ることすらできず、宇治川をはさんで対岸に

ある「恵心院」の山から光り輝く阿弥陀仏を拝んだ。

平等院の名前のいわれと宗派

1、当時、園城寺内にあった塔頭円満院に平等院という子院があり、頼通が崇敬していた園城寺長史の明尊が、平等院建立直後に初代執印(住職)になったためではないか。2、仏教の教えとして、仏の前ではみな平等という思想から名づけられた。…との二説がある。

《宗派》

天台宗の最勝院と浄土宗の浄土院が、兼帯で管理しており、平等院自体は、宗派はどちらにも属さない単立寺院である。

